

● 人生100年 ワクワク検討事業

資料2

現状・課題

- ・2045年頃には、高齢者人口43万2千人(現状より約8万人増)、高齢化率が34.4%の見込み
- ・平均寿命(男性81.7歳、女性87.7歳)・健康寿命(男性73.0歳、女性77.5歳)(2015東大調査)
- ・介護が必要になっても自分らしい暮らしを支える医療福祉の実現に向けた様々な取組を展開
- ・高齢期の不安を抱える人が約8割(2016県民調査)

ワクワクする(長寿を喜び、楽しむ)
人生を目指して

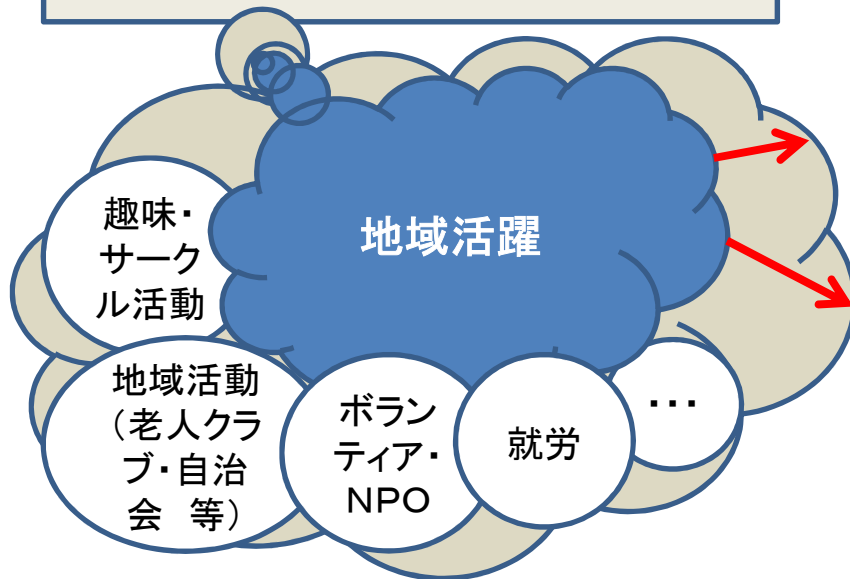
人生100年ワクワク検討部会の開催(2018～)

人生100年時代を迎え、高齢期をポジティブに生きるための県内の高齢者の社会参加、地域活躍、学びの場、高齢者ニーズを調査※・検討 ※調査については、定性調査、定量調査を検討

ワクワクする

高齢期のライフスタイルの共創・提案

中高年世代(前高齢者)and 高齢者(前期・後期)



レイカディア
大学

生涯学習機関
(大学等)

市町社協
市町

団企
体業

中高年世代向けセミナー

・高齢期のライフプラン作成・専門スキルの習得・人材育成

地域ニーズとのマッチング

・在学生・卒業生の活躍の場

情報発信

・活躍事例紹介・相談窓口一覧等

目標

高齢者自身の地域活躍により、健康づくり・生きがいづくりを行い、地域活力を向上

●2019年度スケジュール

年	2019												2020			
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
高対審	1月18日														○	
レイ大懇話会			3月25日		○				○							
部 会	発足		第1回 3月27日		(2019年度) 第1回			第2回		第3回		第4回				
検 討 内 容			部会の目的 検討事項 スケジュール		調査項目検討 ※意識調査 ※ヒアリング調査			調査結果(中間 報告) 報告書作成方針 施策提案		調査結果(最終) 報告書素案 次年度事業案		2019報告書案の 検討 次年度以降につ いて			高対審 への報 告	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 調査実施 (定量調査・定性調査) 県庁内の公募型タスクフォースと協働で実施 </div>												<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 報告書印刷 </div>				

●2019年度の実施内容(案)

○県内の高齢者の状況を把握(定量調査、定性調査を通じて)

- ・県内のシニアの社会参加の状況やニーズ調査→内容を一般の啓発紙として作成、HPなどでも活用

○高齢期をワクワク生きるために必要な仕組みを提案(既存事業の見直し、新規事業)

- ・レイカディア大学のカリキュラムの見直し、中高年層向けセミナーの開催、既存機関(大学・市町・社協)との連携、ソーシャルビジネスの支援、高齢者の活躍の場づくり、コーディネーター養成 など

●2019年度～2022年度 高齢者の活躍推進に向けて

	H30(2018)	2019	2020	2021	2022
人生100年ワーク ワークに向けて	部会発足	調査・検討開始	モデル事業の実施 共創の場	より一層の高齢者の 地域活躍が展開	
		・実態調査、ニーズ調査 ・社会参加事例調査 ・社会参加のきっかけづくりの検討	・中高年向けセミナー ・既存の高齢者事業の見直し・連携 ・地域活躍の支援(人・金・モノ)	・地域コミュニティによる見守り、支え合い ・多様な活躍の場	
レイ大	第41期(10月～)	第42期(10月～)	第43期(新カリキュラム)	第44期(10月～)	
介護保険事業 (支援)計画		7期		8期	
			8期計画の見直しに反映		

● 調査イメージ(案)

…これまでの調査や定性調査から、現在の中高年世代・高齢者(前期・後期)の様々な生活像(ライフスタイル)を描き、県民の「本音」を洞察・発見する

① 定量調査・分析

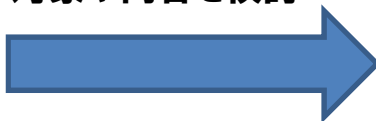
第1～2回会議で検討

…これまでの調査やアンケートに基づく量的分析

(確認したいこと案)

- ・高齢期に対する生活の不安は？
(健康/社会保障/人間関係など)
- ・どういった社会参加をしているのか？
(スポーツ/地域行事など)
- ・何歳ごろまで仕事をしたいのか？
ボランティアをしたいと考えているか？
- ・仕事や家庭以外の時間では、
いつどこで何をしているのか？ など

これまでの調査結果から、
より深く掘り下げたい
対象や内容を検討



(分析のもとになる既存調査)

- ・滋賀の医療福祉に関する県民意識調査
- ・シニアの社会参加に関する調査
- ・国勢調査、社人研調査 など

(必要に応じて追加アンケートを実施)

② 定性調査・分析

第2～3回会議で検討

…新しい理解につながる潜在的データの発掘と洞察

(深く掘り下げて洞察したいこと案)

- ・高齢期に対する不安はどこからくるのか？
- ・地域社会に貢献したい/したくないと考えるに至った
自身の背景・経験とは？
- ・仕事や家庭・地域・健康に対する自身の価値観に
ついてライフステージの変化でどう変わったか？ など

活動の観察や聞き取り結果の分析を通じて
ライフスタイルに対する潜在的な本音を洞察する

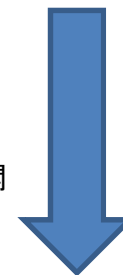
(調査フィールド例)

【暮らし】

1960～80年代にできた団地
親世代から引き継いだ集落
自治会活動の盛んな地域
自治会活動の少ない地域

【活動】

平均年齢が高い企業
趣味のサークル・教室
まちセンや生涯学習機関
レイカディア大学 など



③

調査・分析から得られた、現在の生活像やニーズを、
いくつかの共感できる人物のストーリーとして描いて可視化し、県内で共有する

第3～4回会議で検討

- ・人物への「共感」から共創がうまれる
- ・共感を見つけるために定性調査を行う

・2020年度は、描いた人物のストーリーから共有しあえる問題をもとに
県民との共創によって、これからの高齢期のライフスタイルを描きあう